**校　長　　西田　悟**

**令和５年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| ○総合学科高校の特色を活かし、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現で生徒の学ぶ力と自信を育む学校。  ○健全な市民を育成し、地域や社会を活性化する有能な人材を輩出する、地域から信頼される学校。  ○地域との連携、地域への貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成を実践する学校。  ＜本校の教育目標＞  生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する  １　生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する  ２　豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する  ３　共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する  ４　学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| 令和７年度を目標に、新たなる本校の取組みの３年間を見据えた中期目標とする  生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する  １　生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する  （１）魅力ある系列・よりわかる授業で生徒自身の将来の可能性と出会う機会の提供  ①「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ、生徒の高校生活や進路への自信を育む  　②総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現へ向けての確かな実力の育成  ③「授業改善」に向けた全教職員の取組みの推進  　＊学校教育自己診断（生徒）項目：学習指導の肯定感  令和６年度70％以上の肯定感をめざす。（R２：69.2%、R３：65.4％、R４：72.6%　）  ④１人１台端末を効果的に活用した授業の確立と組織的な取組み  ⑤「学校力向上PT」による校内教職員研修体制の確立  　＊学校教育自己診断（教職員）項目：全般の肯定感  令和６年度80%以上を維持（R４：88.2%）  （２）入学から卒業まで高校生活３年間を見越したキャリア教育の実践…生徒の多様な進路実現への支援  ①中退率の減少  ＊中退率府平均２％台以下を維持する。（R２：1.0％、R３：1.6％、R４：1.6％）  ②進学指導の充実  ③希望の進路の実現（キャリア教育、就職活動支援の充実）  ＊就職希望者の内定率100％の維持（R２：100％、R３：100％、R４：100％）  ２　豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する  （１）公共心と規律性を備えた樟風の生徒を育てる取組みの重点項目  ①授業規律　②欠席・遅刻指導　③服装・頭髪指導　④あいさつの励行  （２）生徒による学校の活性化で生徒の愛校心（帰属意識）の向上  ①クラス活動の活性化及び、生徒会活動などの自主活動における学校行事の企画・運営の充実  ＊学校教育自己診断（生徒）分類：自主活動肯定感　令和７年度65％以上をめざす。（R２：62.9％、R３：56.0％、R４：64.2％）  ②部活動の活性化及び新しい「部活動のあり方」を検討  ＊学校教育自己診断（生徒）項目：「生徒は部活動に積極的に参加している」令和６年度50％以上をめざす。（R２：39.1％、R３：43.4%、 R４：41.1％）  （３）地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成  ①幼、保、小及び中の各学校園や、自治体関係機関、地域商店街などと連携し生徒会活動を通じ地域貢献を推進する。  　　＊学校教育自己診断（生徒）分類：地域連携　肯定感　令和７年度50％以上の肯定感をめざす。（R２：49.3％、R３：20.0％、R４：33.2％、）  （４）人権教育推進の更なる充実  ①障がい者理解　②同和問題　③在日外国人問題　④拉致被害者問題　⑤人権教育推進委員会組織の更新  ＊学校教育自己診断（生徒）分類：「人権教育」肯定感　毎年70 ％以上に維持する。（R２：78.5%、R３：66.3％、 R４：72.8%）  　（５）教育相談、SSW、生徒支援及びいじめ防止対策委員会活動の充実  　　　①生徒学習支援活動の活性化  　　　②教育相談委員会及びSSW委員会の位置づけを明確化。校内においての有効的な活用を図る。  　　　③いじめ防止対策委員会  　　　　　＊学校教育自己診断（生徒）項目：「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定感  毎年50 ％以上に維持する。（R２：75.1%、 R３：41.9％、 R４：42.8%）  ３　共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する  （１）共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する  ・「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育の更なる実践を推進する。  ＊学校教育自己診断（生徒）分類：共生推進　肯定感　令和６年度60％以上をめざす。（R２：69.6%、R３：53.5％、R４：58.7%）  （２）配慮を要する生徒への支援  ・生徒一人ひとりの実態を適切に把握し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら効果的な指導および支援の充実を図る。  ４　学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う  （１）家庭・保護者との連携  ①担任、学年からの家庭へ連携を密にするとともに、学校からは社会見学会や工芸講習会等の参加しやすいPTA活動を計画・実施することで保護者  の学校行事への参加率を高める。  ②保護者と学校が協力し生徒を育てる校風を特色とし、近隣小中学校及び関係施設との地域連携も積極的に働きかける。  （２）校内組織の連携と情報発信力の強化　…学校ホームページの充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れる。  　　①学校説明会を生徒（生徒会執行部・クラブ員）主体にし、志願者・保護者に向けて学校生活を直接伝える形態とする。また、学校紹介や部活動PRを  動画コンテンツ等の発信方法へ移行する。  　　②令和３年度から新設している「校長ブログ」では、今後も日々の学校生活を校長自らが外部へ発信するとともに、学校行事や授業の様子、部活動な  ど「樟風ブログ」でも並行しての発信を継続させる。  ＊保護者連絡メールの加入率95％を維持する。  ５　教員の働き方改革について  （１）府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進としての取組み  ①毎週水曜日に設定している全校一斉退庁日及び各部活動で設定しているノークラブデー実施の徹底  ②日頃の業務体制を教職員各自で見直すとともに、組織的改革に努める。  （２）時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定  　　①アラートメールにより個人への通知とともに、教職員全体へ校内滞在時間超過時間を正確に把握させ時間外勤務の縮減に努めさせる。  　　②学校閉庁日を週休日等と併せて設定し、教職員が長期に休暇を取れるような工夫をする。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和５年11月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
| （１）生徒の回答結果  多くの項目で肯定的意見であった。分類【総合学科】【進路指導】【人権教育】  【ＩＣＴ】の肯定率は高い結果となった。  【総合学科】  　○系列や科目選択については、選びたい系列や科目を選べた：87.８％  【進路指導】  　○学校は、進学や就職などの進路指導を熱心にしてくれている：92.6％  【人権教育】  　　○命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある：89.4％  【ＩＣＴ】  　　〇学校は１人１台端末を効果的に活用している：91.9％  （２）保護者の回答結果  多くの項目で肯定的意見であった。分類【保健指導】【人権教育】【情報提供】  【ＩＣＴ】の肯定率は高い結果となった。  【保健指導】  　○生徒の健康について診断結果や受診の勧告など適切に知らせている  ：90.3％  【人権教育】  　　○学校は子どもに生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てよ  うとしている：92.2％  【情報提供】  　　○学校は教育情報について、学校ホームページやメール等で提供の努力し  　　　ている：95.2％  【ＩＣＴ】  　　○学校は、１人１台端末を効果的に活用している：94.5％  （３）教職員の回答結果  多くの項目で肯定的意見であった。分類【全般】【進路指導】【共生推進】  【情報提供】の肯定率は高い結果となった。  【全般】  ○学校での生活は、生徒のためになっている：96.3%  【進路指導】  　　○進路相談では生徒・保護者へ情報提供するとともに適切な話し合いをし  　　　ている：100％  【共生推進】  ○共生推進教室の生徒が共生推進教室の生徒とともに学び、ともに育つため  に学校は、授業・学校行事・クラブ活動等の中で工夫をしている：98.1％  【情報提供】  ○教育活動に必要な情報について、学校ホームページやメール等で生徒・  　保護者や地域への周知に努めている：96.3% | 第１回（令和５年６月29日）  ○委員からの提案・助言内容  　・今年度の学校説明会の開催形態について、昨年度の開催回数、時期、方法を  精査し、今年度は新たな開催形態にすることのようであるが、昨年度と同様  に積極的に広報活動を行い、志願者の確保に努めてもらいたい。  　・学校力向上ＰＴの様々な取組みは非常に良いと思う。授業力の向上をはじめ  とした学校力を組織的に向上してほしい。  　・スクールポリシーに記載されている枚岡樟風高校の３つの校訓を大切にして、  学校を良い方向に導いてほしい。  第２回（令和５年11月22日）  ○委員からの提案・助言内容  　・総合学科の特色を生かした教育活動が充実しており、即戦力として通用する  生徒を社会に送り出していることをもっと前面に出して学校広報に役に立て  ていただきたい。  　・先日実施した出前型学校説明会に近隣高校６校に参加いただいたが、枚岡樟  風高校だけが現役高校生の参加があり、中学生には非常に効果的な学校説明  ができたと思う。今後もこの形を継続してほしい。  　・本日の授業見学を通じて枚岡樟風高校は授業規律が整っていると感じた。生  徒の雰囲気は大変良く、主体的・協働的に授業を受けることができていた。  　・さまざまな高校生活の取組みの中でクラブ活動を活性化し、魅力ある学校づ  くりに努める中で自己有用感をもつ生徒の育成を行い、枚岡樟風高校の役割  について、しっかりと具現化できている。  第３回（令和６年２月７日）  ○委員からの提案・助言内容  　・生徒の学校教育自己診断結果項目、「学校に行くのが楽しい」について、肯定  的回答が７割に至っていることは大変すばらしい。  　・本校の課題でもある、生徒の欠席・遅刻数が減少しない現状については学校  での授業・生活規律遵守の徹底、クラブ活動の活性化などに強化することに  より減少傾向が見られることより、学校全体で取り組む必要がある。  　・来年度より、新たに設立する「生徒支援部」についての目的や役割について、  生徒ファーストの視点に立った非常によい組織改革であるので、是非成功さ  せていただきたい。  　・現段階で３年生の進路希望未定の生徒について、個々の生徒の特性を生かし  た進路決定ができるように学校全体で支援をしていくことが望ましい。 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R４年度値] | 自己評価 |
| １  生  徒  が  学  ぶ  喜  び  と  学  ぶ  力  を  高  め  希  望  す  る  進  路  を  実  現  す  る  力  を  育  成  す  る | （１）魅力ある系列・よりわかる授業で生徒自身の将来の可能性と出会う機会の提供  （２）入学から卒業  まで３年間を見越  したキャリア教育  の実践 | ①「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ、  生徒の高校生活や進路への自信を育む。  ・数学Ⅰ及び英語コミュニケーションⅠにおい  て、習熟度別展開授業を実施する。基礎・発展  クラスに分かれ、個々の学習スピードや内容に  合わせた授業展開により、これまで以上に学び  を深め、生徒自ら積極的な授業に取り組む態度  や学びに向かう力を育てる。  ・各教科の学習において、様々な技術を習得する  ことで新たな学びに向かったり、学びを人生や  社会に生かそうとする力を高める。  ②総合学科の特色を活かした魅力ある授業づく  りで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現  へ向けての確かな実力の育成  ・各教科や系列のさらなる特性を生かした魅力あ  る授業内容を随時更新し、育成すべき資質・能  力をバランスよく確実に育む。  ・きめ細かい指導で生徒の知識及び技能を高い質  で取得させ、思考力、判断力、表現力の向上で  自らの進路開拓や実現に必要な力を育てる。  ・「産業社会と人間」において、学びに向かう力  や人間性を涵養し、生徒一人ひとりがどのよう  に社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか  を主体的に学習に取り組ませる。  ③「授業改善」に向けた全教職員の取組みの  推進  ・「観点別学習状況の評価」の観点が整理され、  評価を指導の改善に生かすという視点を重視  し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向  けた授業改善を一層推進する。  ・教員相互の授業見学や公開授業、教材研究・研  究授業の活性化、授業力向上のための校内研  修、生徒授業アンケート結果データの活用によ  り教員の授業力を向上させ日々の授業へ随時  フィードバックさせる。  ④１人１台端末を効果的に活用した授業の確立と  組織的な取組み  ・１人１台端末の活用を積極的に実践し、各教室  の電子黒板（多機能プロジェクター）と連携さ  せた魅力ある授業づくりを最大限に推進し、生  徒たちの基礎学力の確実な定着と深い学びを図  る。  ・緊急時や臨時休業及び長期に渡る登校が困難な  生徒に対し、オンライン授業（リモート授業）  対応による学習保障が万全にできる校内体制  の強化。  ・生徒用端末の活用法や保守管理等を生徒情報委  員とともに、端末を大切な学習ツールとして校  内で位置づけるとともに授業に不可欠な存在に  なるまで意識づけさせる。  ⑤「学校力向上PT」による校内教職員研修体制  の確立  ①中退率の減少  ・生徒の出身中学校との連携を強化し生徒支援の  助言を得るとともに、進路変更があった場合は  すぐに学校から連絡を取る体制を継続さる。  ②進学指導の充実  ・校内進学講習指導体制を明確にし、進学に対応  できる学力の向上と希望する志望校をワンラ  ンクあげるサポートと合格まで粘り強い指導  を推進する。  ・保護者向けの進学説明会を実施し、経済的な面  を含めて、大学進学に向けて家庭の協力を得ら  れるようにする。  ・長期休業中の進学希望対象者講習  ③希望の進路の実現（キャリア教育、就職活動  支援の充実）  ・就職希望者の内定率100％をめざし、体系的  な指導体制を確立する。 | ①学校教育自己診断（生徒）分類：「全般」肯定感平均65％以上をめざす〔63.9%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「授業はわかり  やすく、教え方や進め方に様々な工夫をしている  先生が多い」肯定感平均65％以上維持をめざす〔68.3%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「授業で自分の  考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定感平均70％以上維持をめざす〔74.1%〕  ②学校教育自己診断（生徒）項目：「この学校にはほかの学校にない特色があり、教育方針をわかりやすく伝えている」肯定感平均65％以上維持をめざす〔67.8%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「系列や科目選  択については、選びたい系列や科目を選べた」  肯定感平均80％以上維持をめざす〔83.3%〕  ・学校教育自己診断（生徒）分類：「学習指導」肯  定感平均70％以上維持〔72.6%〕  ・学校教育自己診断（生徒）分類：「進路指導」肯  定感平均70％以上維持〔77.3%〕  ③学校教育自己診断（教職員）分類：「学習指導」  肯定感平均80％以上をめざす〔77.4%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「学習の評価に  ついての説明はしっかりされていて、納得ができ  る」肯定感平均70％以上維持〔72.3%〕  ・学校教育自己診断（教職員）項目：「他の先生の  授業見学や授業力向上のための研修の機会があ  る」肯定感平均70％以上をめざす〔92.7%〕  ④学校教育自己診断（生徒）分類：「ICT」肯定感平  均70％以上をめざす〔65.3%〕  ・学校教育自己診断（教職員）項目：「生徒の実態  をふまえ、ICT機器の活用や参加型の学習を行う  など、指導法の工夫・毅然を行っている」肯定感  平均80％維持をめざす〔91.9%〕  ⑤学校の将来像を見据えた教育活動及び行事計画  ・学校教育自己診断（教職員）項目：分類「学校の  教育活動について、教職員で日常的に話し合い評  価を行い、次年度の計画に生かしている」肯定感  80％以上をめざす〔75.8%〕  ①中退率の減少2.0％未満　〔1.6％〕  学校教育自己診断（生徒）分類：「生徒指導」肯  定感平均５％上昇をめざす〔51.2%〕  ②大学合格実績、合格者輩出保護者向け進路説明会  数〔２回〕  夏期・冬季講習30名以上の参加  学校教育自己診断（生徒）分類：「進路指導」  肯定感平均70％以上維持をめざす〔77.6%〕  ③進路未決定者の減少と就職決定者の増加  ・進路未決定者の割合７％未満を維持〔3.7%〕  ・就職内定率95％以上〔100％（一次86%）〕 | ①学校教育自己診断（生徒）  分類：「全般」肯定感平均  67.4％（＋3.5ポイント）  〇  ・昨年度より4.5%上昇  　72.8%◎　＊教職員の改  善意識も93.3%（＋  1.1ポイント）に達した  ・肯定感平均81.2%（＋  7.1ポイント）◎  ②肯定感平均70.7％（＋2.9ポイント）◎  ・肯定感平均83.9％（＋0.7ポイント）◎  　＊令和５年度入学生より  ７→５系列へ再編  ・肯定感平均75.5％（＋  2.9ポイント）◎  ・肯定感平均84.1％（＋  6.8ポイント）◎  ③肯定感平均84.5％（＋  6.7ポイント）◎  ・肯定感平均74.5％（＋2.2%）〇  ・肯定感平均92.7％（＋23.4ポイント）◎  ④肯定感平均82.4％（＋  17.0ポイント）◎  ・肯定感平均92.7％（＋0.8  ポイント）◎  ⑤肯定感平均89.1％（＋  13.3ポイント）◎  ①中退率の減少1.6％未満  〔1.6％〕　肯定感平均  54.6%（＋3.4ポイント）  〇　＊指導改善に注力する  ②進路説明会数　保護者向け　２回（延べ100人）、生徒向け６回（延べ1080人）〇  夏期・冬季講習　10回（延  べ26人）〇  　肯定感平均84.1%（＋  6.5ポイント）◎  ③進路未決定者の減少と就  職決定者の増加  ・進路未決定者の割合５％  　〇  ・就職内定率100％（一次  86%）〇 |
| ２  豊  か  な  心  と  人  権  意  識  を  身  に  つ  け  将  来  社  会  や  地  域  に  貢  献  で  き  る  生  徒  を  育  成  す  る | （１）公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。  （２）生徒による学校の活性化で生徒の愛校心の向上  （３）地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成  （４）人権教育推進の更なる充実  （５）教育相談、SSW、生徒支援及びいじめ防止対策委員会活動の充実 | ①授業規律　②欠席・遅刻指導  ③服装・頭髪指導　④あいさつの励行  ①クラス活動の活性化及び、生徒会活動などの自  主活動における学校行事の企画・運営の充実  ・体育祭、文化祭等の行事や日々のホームルーム  を通じてクラス活動の活性化を図る。  ・校外学習や学校行事の企画・運営でクラス活動  を生徒一人ひとりが主体に活動できるように  する。  ②生徒会活動などの自主活動における学校行  事の企画・運営の充実。  ・生徒会執行部員を中止とした学校行事の運営  ・中学生向け学校説明会など生徒主導の運営にす  るとともに、地域貢献活動へも働きかけるなど生徒会活動をリードさせる。  ・あいさつ運動、生徒会通信の発行等を恒常的に  行い、生徒会活動の活性化を行う。  ③部活動の活性化及び新しい「部活動のあり方」  を検討  ・部活動に関する生徒のとらえ方を調査し、新し  い部活動のあり方を生徒や教員にとって望まし  い環境を構築する。  ①幼、保、小及び中の各学校園や、自治体関係機関、地域商店街などと連携し生徒会活動を通じ地域貢献を推進する。  ・生徒の自己有用感や自己効力感、自他への肯定  感を育むとともに、地域から信頼される学校を  めざす。  ①障がい者理解②同和問題③在日外国人問題・人  権教育推進委員会の体制を更新し、人権HRを  各学年主体で充実させる。  ・人権教育推進委員会の体制を更新し、人権HR  を各学年主体で充実させる。  ・生徒の人権意識を様々な諸課題を理解させるこ  とで育み、豊かな心と国際的な人権感覚豊富な  生徒の育成をめざす。  ①生徒支援活動の活性化  ・支援の必要な生徒に対して学年を超えて情報交  換ができる「生徒支援会議」を開催し、支援の  内容を既存の校内組織やSC・SSWへ繋げ迅  速な対応がとれる体制を整備し常に情報交換  を図る。  ・学校全体で情報共有ができる「生徒支援会議」  を年２回以上開催し、学習面や生活指導面で特  に配慮や支援が必要な生徒の変化する状況を  確実に伝えると同時に新たな情報収集に役立  てる。  ②教育相談委員会及びSSW委員会の位置づけ  を明確化  ・学年（担任）や生徒支援会議他からの諸課題を  委員会で取りあげ、SCとの連絡調整及び校内  への情報提供を教育相談委員会が担い生徒・保  護者が安心して通学できる環境を整える。  ・生徒支援活動において、関係者からの依頼や  SCとSSWの情報交換を委員会が調整し必要  に応じて外部機関との連携を図る。  ③いじめ防止対策委員会  ・生徒及び保護者に対して、本校の「いじめ防止  対策」をこれまで以上にアピールし、いじめは  絶対に許さない姿勢を学校全体で示すととも  に外部講師による講演会などを通して理解を  深める取組みを推進するとともに防止対策の  一層の充実を図る。  ・教育相談委員会、人権教育推進委員会及び生徒  指導部との連携で、校内で発生した「いじめ事  案」に瞬時に対応し、当該生徒等からの丁寧な  聞き取りをもとに慎重に取り扱う。また、保護  者他関係機関へも配慮した説明を行い事象解  決に向けて学校全体で取り組む。  ・いじめ事案対策後は、再発防止に向けて職員研  修等を開催し、課題分析や校内指導体制の見直  し等に教職員全員で取り組む。 | ①～④  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感平均70％以上の維持をめざす〔77.4%〕  ・①～③については、生徒指導部・各学年が協力  し「特別指導週間」年２回以上の実施をめざす。  ・④については、生徒会執行部員を中心に学期ご  との実施をめざす  ①学校教育自己診断（生徒）項目：自主活動「クラ  ス活動を通して、仲間づくりなど楽しくできてい  る」肯定感平均70％以上をめざす〔66.0%〕  ②学校教育自己診断（生徒）項目：「体育祭・文化  祭などの行事は、楽しく行えるように工夫されて  いる」肯定感平均５％上昇をめざす〔68.3%〕  ③クラブ加入率40％以上をめざす〔37.0%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「生徒は部活動  に積極的に参加している」の肯定感平均５％上昇をめざす〔41.1%〕  ①系列やクラブ・生徒会で地域貢献  ・学校教育自己診断（生徒）分類：地域連携　肯定  感平均の５％上昇をめざす〔33.2%〕  ①～③  ・学校教育自己診断（生徒）分類：「人権教育」肯  定感平均　毎年70％以上維持をめざす  〔72.8%〕  ①各学年からの情報を各委員会で共有し支援の  内容を話合い専門家へ繋ぐ。  ・学校教育自己診断（教職員）項目：「教育相談体  制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職  員とも相談することができる」肯定感平均　毎年  80％以上の維持をめざす〔87.1%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「担任の先生以  外にも、気軽に相談することができる先生がい  る」肯定感平均60％以上維持をめざす〔63.5%〕  ②SC、SSW交えた情報交換会の開催：年３回  ・学校教育自己診断（教職員）項目：「教職員の相  談相手として、来校されるSCが有効に活用され  ている」肯定感平均70％以上維持〔72.6%〕  ・学校教育自己診断（教職員）分類：「教育相談」  肯定感平均80％以上の維持をめざす〔79.9%〕  ③いじめ防止委員会活性化年４回以上の開催  ・いじめアンケートの実施（年２回）と結果検証及  び情報共有  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「学校は、いじ  めについて困っていることがあれば真剣に対応  してくれる」肯定感平均５％上昇をめざす  〔42.8%〕  ・学校教育自己診断（保護者）項目：「学校は、い  じめについて子どもが困っていることがあれば  真剣に対応してくれる」肯定感10％上昇をめざ  す〔45.9%〕  ・学校教育自己診断（教職員）項目：「いじめが起  こった際の体制が整っており、組織的に迅速な対  応することが出来ている」肯定感平均80％以上  の維持をめざす〔88.7%〕 | ①～④  ・肯定感平均75.3％（－  2.2ポイント）〇  ・①～③「特別指導週間」年２  回以上の実施（４回実施）  ・④あいさつの励行は、毎週  水曜日早朝に生徒会執行  部員が正門付近で実施し、  学年単位でも行われた。〇  ①肯定感平均73.4％（＋  7.4ポイント）◎    ②肯定感平均67.0％（－  1.3ポイント）△  ・生徒会執行部が完全主体と  なり運営  ・クラブ員による地域清掃ボ  ランティアの実践  ・毎週水曜日早朝に正門付近  で実施継続  ③クラブ加入率37.0％△  ・肯定感平均41.8％（＋  　0.6ポイント）〇  ＊生徒数減及びコロナ禍で中  学校での活動制限が影響し  ていると考えられる。  ①系列やクラブ・生徒会で地  域貢献  ・肯定感平均40.6％（＋  7.4ポイント）◎  ＊R３比較（＋20.0ポイン  ト）◎  ①～③  ・肯定感平均76.3％（＋  3.5ポイント）〇  ①校内組織再編と活動内容を  改善した。  ・肯定感平均89.1％（－  2.0ポイント）〇  ＊来年度より新分掌（生徒支  援部）を設置  ・肯定感平均66.7％（＋  3.2%）〇  ②SC、SSW交えた情報交  換会の開催（３回実施）  ・肯定感平均70.9％（－1.7  ポイント）◎  ・肯定感平均80.0％（＋0.1ポイント）〇  ③いじめ防止委員会活性化  年４回以上の開催　〇  ＊アンケート結果：問題なし  ・肯定感平均46.6％（＋  3.6ポイント）〇  ＊質問がいじめに偏っている  ため。内容の変更を検討。  ・肯定感平均42.1％（－  3.8ポイント）△  ・肯定感平均87.3％（－  1.4ポイント）〇 |
| ３  共  生  推  進  教  室  を  軸  に  共  に  学  び  共  に  育  つ  イ  ン  ク  ル  │  シ  ブ  教  育  を  実  践  す  る | （１）共生推進教室  でインクルーシブ教  育を実践する  （２）配慮を要する生徒への支援の充実 | 「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習  活動や部活動、学校行事等においてインクルーシ  ブ教育の更なる実践を推進する。  ・共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、  総合学科生徒の人権教育を推進する  ・新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室  の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。  ・日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで  配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験  を積み、互いの理解の促進を図る  ・生徒一人ひとりの実態を適切に把握し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら効果的な指導および支援の充実を図る。  ・年度当初に全教職員で生徒の実態を把握するた  めの生徒情報共有会議を開催  ・学期ごとに教育支援会議を開催し、生徒の授業  への取り組みや学習の状況の確認を行い、一人  ひとりの学習支援について検討する | ・学校教育自己診断（生徒）分類：「共生推進」肯  定感平均５％上昇をめざす〔58.7%〕  ・学校教育自己診断（生徒）項目：「学校は、障が  いがある生徒とともに学ぶ取組みに熱心である」  肯定感平均70％以上をめざす〔64.7%〕  ・学校教育自己診断（教職員）分類：「共生推進」  肯定感平均90％以上の維持をめざす〔93.5%〕  ＜生徒情報共有会議＞  生徒の状況の変化に応じて学期ごとに年３回以上  の開催  ＜教育支援会議＞  教育相談委員会からの意見も取り入れながら学期  ごとに年３回定期的に開催 | ・肯定感平均61.2％（＋  2.5ポイント）◎  ・肯定感平均65.1％（＋  0.5ポイント）〇  ・肯定感平均96.4％（＋  2.9%）◎  ・生徒情報共有会議（毎週１  回）及び教育支援会議（各  学期１回） 〇 |
| ４  学  校  と  保  護  者  ・  地  域  が  連  携  し  と  も  に  生  徒  の  成  長  を  支  援  す  る  開  か  れ  た  学  校  と  し  て  府  民  か  ら  信  頼  さ  れ  る  学  校  づ  く  り  を  行  う | （１）家庭・保護者との連携  （２）校内組織の連携と情報発信力の強化 | ①担任、学年からの家庭へ連携を密にするととも  に、学校からは社会見学会や工芸講習会等の参  加しやすいPTA活動を計画・実施することで  保護者の学校行事への参加率を高める。  ②保護者と学校が協力し生徒を育てる校風を特  色とし、近隣小中学校及び関係施設との地域連  携も積極的に働きかける。  ①学校説明会を生徒（生徒会会執行部・クラブ員）  主体にし、志願者・保護者に向けて学校生活を  直接伝える形態とする。また、オンライン形式  と並行させたハイブリット型への移行も推進  する。  ②令和３年度から設けている「校長ブログ」で  は、今後も日々の学校生活を校長自らが外部へ  発信するとともに、学校行事や授業の様子、部  活動など「樟風ブログ」でも並行しての発信を  継続させる。 | ①学校教育自己診断（保護者）分類：「参画」肯定  感平均５％の上昇をめざす〔34.7%〕  ・学校教育自己診断（保護者）項目：「PTA活動は、  活発で参画しやすい」肯定感平均５％上昇をめ  ざす〔25.6%〕  ・学校教育自己診断（保護者）項目：「授業参観や  学校行事に参加したことがある」肯定感平均の  ５%上昇をめざす〔43.7%〕  ②学校教育自己診断（保護者）分類：「地域連携」  肯定感平均５%の上昇をめざす〔45.9%〕  ①令和５年度学校説明会及び体験授業・クラブ体験を年間５回開催〔５回〕  　＊非常時に備え、オンライン形式でも対応できる対策をする。  ②令和５年度も毎日の更新に努める  ・学校教育自己診断（保護者）分類：「情報提供」  肯定感平均80％以上の維持をめざす〔77.3%〕  ・学校教育自己診断（教職員）分類：「情報提供」  肯定感平均90％以上の維持をめざす〔88.7%〕 | ①肯定感平均39.2％（＋  4.5ポイント）〇  ・肯定感平均25.0％（－  0.6ポイント）△  ・肯定感平均53.4％（＋  9.7ポイント）◎  ＊R３比較（＋24.4ポイン  ト）◎  ②肯定感平均44.7％（－  1.2ポイント）△  ①学校説明会及び体験授  業・クラブ体験（３回）◎  ＊内容を精査し凝縮させた。  ＊学校・部活動紹介動画コン  テンツを拡充した。  ②日々の更新　◎  ・肯定感平均86.1％（＋  8.8ポイント）◎  ・肯定感平均94.5％（＋  5.8ポイント）◎  ＊公式インスタグラムを活  用し、生徒会執行部員が毎  日の発信を継続中 |
| ５  教  員  の  働  き  方  改  革  に  つ  い  て | （１）全校一斉退庁日・ノークラブデーの明確化  （２）時間外勤務の縮減 | ①全校一斉退庁日及びノークラブデー実施の徹  　底  ②日頃の業務体制を教職員各自で見直すととも  に、組織的改革に努める。  ①アラートメールにより個人への通知とともに、  教職員全体へ校内滞在時間超過時間を正確に把  握させ時間外勤務の縮減に努めさせる。  ②学校閉庁日を週休日等と併せて設定し、教職  員が長期に休暇を取れるような工夫をする。 | ①全校一斉退庁日の徹底実施  ・全校一斉退庁日：毎週水曜日に設定し周知する  ・部活動の活動実績に合わせた休養日の設定  ②「大阪府部活動のあり方に関する方針」の順守  ①月80（45）時間以上の超過時間勤務者に対し  て、管理職から業務内容の聞き取りや、改善方  法について指導助言し、産業医の面談を受けさ  せる。  ②学校行事予定を見直し、夏季休業日や冬季休業  日などに設定する。 | ①  ・全校一斉退庁日：毎週水曜  日に設定し周知したが、徹  底までには今後も改善と努  力が必要　〇  ②方針を順守した　〇  ①アラートメールの活用と  業務の改善により減少傾  向にある　〇  ②令和６年度行事予定に反  映させる　〇 |